



Interview

1

旭区のシンボリック的存在、千林商店街。その千林商店街で生まれ育ち、親の代からの食堂を営んでおられる青山さんに、旭区についてお話を伺いました。

Q 旭区での一番の思い出はどんなことでしょうか。

千林商店街で商売をしてきたこともあるのですが、戦争で千林は焼けなかったため、戦後復興時の買い物先として大変なにぎわいであったのを鮮明に覚えています。

その後も、庶民の買い物の場所は、京阪間では千林ぐらいいしかなかったので、しばらく繁栄の時代が続きましたが、こうした商店街の歴史を見続けてこられたことが思い出といえるでしょうか。



Q 現在の旭区はいかがでしょう。

どこも同じですが、以前のようなにぎわいを取り戻すのは、これからの時代は難しいでしょう。少なくとも現状維持ができるよう、若い世代の方々を中心に、地道に取り組むことが大切だと思います。

具体的には、住民目線での「住みよいまち」をめざすべきでしょう。その点、旭区は小ぢんまりとした街で住みやすい。

商店街を中心としたお店や病院も結構あって、日常生活は区内でほぼ事足りる。それにどこに行くにも交通が便利なところは、他の区に負けない魅力だと思います。

Q 新たに旭区民となろうかと考えておられる方へひとことお願いします。

家を構えるということは、それぞれ事情があって自由にならないものですが、せつかくご縁があって来られた方々には、ぜひ、お住まいになる地域を愛して欲しいと思います。住めば都といいますが、街を愛せば、その良さや魅力が見えてきます。旭区は古い街なので住民のつながりが残っていますが、これは住民がつくり育むものです。新しい方には地域活動に参加していただきたい。きっといい街になります。楽しく育てましょう。



千林商店街

一帯は昔、農村地域でしたが、京街道や野崎街道が集まる交通の要衝でもあり、定期市が催されるようになったのが発祥。第二次世界大戦後、戦災を免れた市内唯一の商店街として昭和30年代にかけて大阪で最有力の商店街として発展。

- 明治43年 京阪「旧森小路駅」設置により商店が増える。
- 昭和6年 市電守口線、国道1号線開通。現在の京阪「千林駅」が設置され、その間が千林商店街となる。
- 昭和32年 「ダイエー主婦の店」、翌年「ニチイ」が出店。スーパーと地域商店との競合が「日本一安い千林」を確立。
- 昭和52年 地下鉄谷町線「千林大宮駅」設置。
- 平成20年 ホームページ「せんばやしどっこむ」が関西ウェブサイト大賞2008最優秀賞受賞。
- 平成26年 「全国がんばる商店街30選」を受賞。

Interview

2



生まれも育ちも旭区で、現在、高殿校下の生涯学習推進員として活躍されている坂井さん。地域と連携した教育が大切に、それはいずれその地域に還元されるとおっしゃっています。

Q 坂井さんと旭区の関係についてお聞きします。

私は、生まれも育ちも旭区です。子どもの頃は狭い土がむき出しの路地が遊び場で、チョウやバッタ、など虫取りもできました。

大阪万博の頃、路地も舗装されて、蠟石でらくがきなんかした記憶があります。

Q 旭区はいかがでしょう。

区役所から委託されて、防災の取り組みを町会が担うようになり、再び私たち地域コミュニティへの期待が高まっているのかなと思います。

住民はお年寄りが多いのですが、習い事やボランティア活動をされている方が多いです。都心のカルチャースクールは結構お金がかかりますが、生涯学習の各教室は身近な小学校が活動場所に参加費も安い。また、地域活動のボランティアなど、みなさん輝いて参加されておられます。



Q 教育環境はどうでしょう。

繁華街がない、ということは逆に子どもへの影響を心配しなくてすむので安心です。それと、区内には、公立の小中高、私立の中高大、特別支援学校、専修学校まであります。また、京阪間の交通が便利で、沿線の特色ある公立・私立高校、専門学校へも通いやすい。府立大手前高・天王寺高、市立高・東高などへ電車一本で通えます。まわりにもそんな子たちが結構いますよ。

それと、旭区は家庭・学校と連携して、教育環境を充実させる市の施策にも、地域をあげて取り組んでいただいています。

子どものころの楽しい思い出がある地域には、必ず大人になって戻ってくるといいますから、これは大変大切なことです。

旭区で育った子どもたちが、将来、旭区に恩返ししてくれることを期待しています。

